

◆尾鷲ヒノキの特徴

木の成長にとって厳しい条件の下でゆっくりと長い年月をかけて育った「尾鷲ヒノキ」は、年輪が密で鮮やかな赤みがあり、強度が高い良質の建材として全国的にも名を知られています。



125年生のヒノキ



伊勢志摩サミットで使用された
尾鷲ヒノキの円卓
(外務省ホームページより)

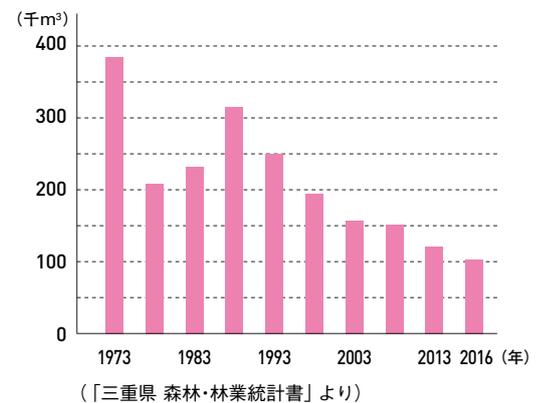
豆知識

年輪は、1年に1本ずつできていきます。幅の広さが違うのは、成長の速度の違い。早く成長した年は幅が広くなり、ゆっくり成長した年は幅が狭くなります。一般的に幅が狭いと木がしまり、強度が高くなります。

◆尾鷲ヒノキの生産量

三重県のヒノキの生産量は1973年の38万4千 m^3 をピークとして以降、減少の一途をたどり、2016年では10万5千 m^3 となっています。尾鷲ヒノキの生産量は県内のヒノキ生産量の約5分の1と推定されることから、その生産量は約8万 m^3 から2万 m^3 程度に落ち込んでいることが推察されます。これは、尾鷲ヒノキ本来の主力製品である“見せる建築材”としての需要が減少したことや木材価格の低迷に加え、近年ではニホンジカなど野生鳥獣による被害が育林コストを増大させ、森林所有者の意欲低下による森林の手入れ不足や伐採後の植林の放棄などの問題とともに、持続可能な林業生産活動を維持していく上で大きな課題になっています。

ヒノキ素材生産量の推移



◆海を守る林業の取り組み

この地域では、古くから森と海とのつながりを意識した森林管理が行われてきました。特に沿岸部では、重要な漁場も多いことから、魚が繁殖などで集まりやすい木かげをつくる「魚つき保安林」として森林を保護してきました。

また、森林管理によって生物多様性にも配慮する取り組みも行われています。その例が、アオリイカの資源保護です。漁業者、ダイビングショップや地元小学生が尾鷲ヒノキの間伐材を使ってアオリイカが卵を産みつける場所（産卵床）を設置し、資源保護に努めています。



産卵床の仕組み



産卵に来るアオリイカ



ヒノキの間伐材を沈める



産み付けられた卵



尾鷲ブランドのアオリイカ

アオリイカは尾鷲の秋の味覚として知られています。尾鷲ヒノキの産卵床を利用したアオリイカは、尾鷲のブランドとして販売されています。

考えよう!

年輪が密な尾鷲ヒノキをつくるために、どのような工夫がされているのかな?



4 近畿地方の農業遺産

10か所の地域が農業遺産に認定されています。



7 三重県尾鷲市、紀北町

日本農業遺産

「急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業」 P.20

詳しく見てみよう!



8 兵庫県南あわじ地域

日本農業遺産

「南あわじにおける水稲・たまねぎ・畜産の生産循環システム」 P.18

詳しく見てみよう!



9 兵庫県丹波篠山地域

日本農業遺産

「丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～」

水が不足しがちなため、稲作をしない「犠牲田」を集落で協力して設け、そこで黒大豆が栽培できるように高い畝をつくる乾田高畝栽培や江戸時代から優良な種子を選抜して育種する取り組みが今でも受け継がれている。

詳しく見てみよう!



(「乾田高畝栽培」黒大豆の栽培より)

10 兵庫県兵庫美方地域

世界農業遺産

日本農業遺産

「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」

集落が山間部の谷筋にあり、牛の飼育、棚田での米づくりが農家の生活を支えた。1898年に全国に先駆け「牛籍簿」が整備され、現在の血統登録の基礎になった。地域内産にこだわった改良の結果、独自の遺伝資源が保全され、黒毛和牛の多様な遺伝子の維持に貢献している。

詳しく見てみよう!



棚田のあぜに放牧

1 滋賀県琵琶湖地域

世界農業遺産

日本農業遺産

「森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」

琵琶湖の伝統漁法「エリ漁」の他、環境こだわり農業や琵琶湖の魚が産卵に来る水田「魚のゆりかご水田」の取り組み、水源林の保全、そして湖魚と農産物が融合した伝統的な食文化から構成される、琵琶湖と共生する農林水産業。

詳しく見てみよう!



魚のしかけ「エリ」

2 三重県鳥羽・志摩地域

日本農業遺産

「鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業～持続的漁業を実現する里海システム～」

リアス海岸の豊かな海で、古くからアワビやサザエを漁獲する海女漁業と1893年に世界で初めて成功した真珠養殖業が、自然環境や生態系に配慮して持続的に営まれている。

詳しく見てみよう!



3 和歌山県みなべ・田辺地域

世界農業遺産

「みなべ・田辺の梅システム」

養分に乏しい斜面に梅林を開き、周辺に薪炭林を残している。薪炭林は高品質の炭「紀州備長炭」を産み、また、水源かん養や斜面の崩落防止の機能がある。また、梅の受粉を助ける二ホンミツバチの生息地になっている。就業者の7割は梅の産業に関わり、梅は地域の基幹産業になっている。 ※薪炭林 炭の原料となる木材を取るための林

詳しく見てみよう!



4 和歌山県海南市下津地域

日本農業遺産

「下津蔵出しみかんシステム」

地域のほとんどが傾斜地で、約400年前から独自の石積み技術でつくった段々畑でみかん栽培をしていた「みかん発祥の地」といわれている。土壁の蔵でみかんを熟成させる「蔵出し技術」を生み出し、継承している。

詳しく見てみよう!



5 和歌山県有田地域

日本農業遺産

「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」

数多くの優良品種を見出すことで、栽培品種のバリエーションを増やしてきた。さまざまな地勢・地質の組み合わせに応じた栽培や品種の選定を行い、みかん農家・苗木農家・出荷組織が連携して日本を代表するみかんの産地を形成・維持してきた。

詳しく見てみよう!



6 和歌山県高野・花園・清水地域

日本農業遺産

「聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」

100以上の木造寺院を維持してきた聖地高野山は、建築に必要な6種類の針葉樹の伐採を禁じるなど持続的な建材の自給を可能にした。花園地域の「傾斜地を利用した仏花栽培」、清水地域の「棚田の畦畔を利用した多様な植物の育成・栽培」と、高野山との結びつきで発展してきた。

詳しく見てみよう!



清水地域の棚田あらぎ島

4章 中部地方

(新潟県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・長野県・山梨県・静岡県・愛知県)

1 中部地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

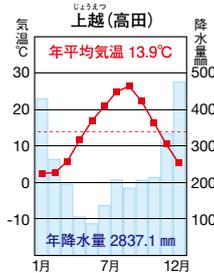
本州の中央に位置する中部地方は、内陸部に「日本アルプス」と呼ばれる 3000 m級の山々が連なり、そこから流れ出す河川の下流域に広がる平野は、海岸近くまで起伏に富んでいることが特徴です。南北に広く標高差も大きいいため、日本海側の「北陸」、内陸で標高が高い「中央高地」、太平洋側の「東海」と3つの地域にわかれ気候も大きく異なります。それぞれに工業、農業、漁業、観光業などが個性豊かな形で発展しています。

北陸 P.24

冬は北西からの湿った季節風の影響で雪が多く、特に山間の地域では雪が3~4mも積もり、日本有数の豪雪地帯となっています。江戸時代以降、水はけの悪かった平野に排水路が掘られ農地が整備されると、豊富な雪解け水を有効活用できるようになり越後平野は全国有数の稲作地帯になりました。また、冬に副業として工芸品をつくる伝統産業が発達しました。

Q1 北陸の伝統産業ではないものはどれ？

- ① 小千谷ちぢみ(織物)
- ② 輪島塗
- ③ 鱒江のメガネフレーム

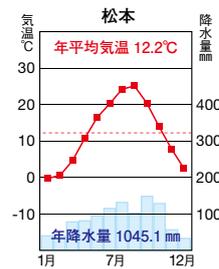


中央高地 P.26

日本アルプスから流れる多くの河川の上流・中流域に中央高地はあります。平地が少なく、川に沿うように人口や産業が密集しており、盆地には地域の中心となる都市があります。1年を通して降水量が少なく、夏は盆地を中心に暑くなりますが高原は涼しく、軽井沢町などの避暑地になっています。農業では甲府盆地の扇状地では養蚕からぶどうなどの果樹の栽培へ、諏訪盆地ではきれいな水を生かして製糸業から精密機械工業へ、高原では牧畜や野菜の生産からレタスなど高原野菜の栽培へと時代とともに変化してきました。

Q2 中央高地にある大きな盆地は甲府盆地、長野盆地と何盆地？

- ① 濃尾盆地
- ② 福井盆地
- ③ 松本盆地

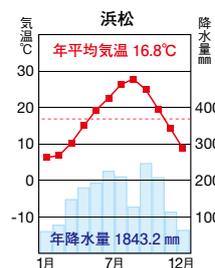


東海

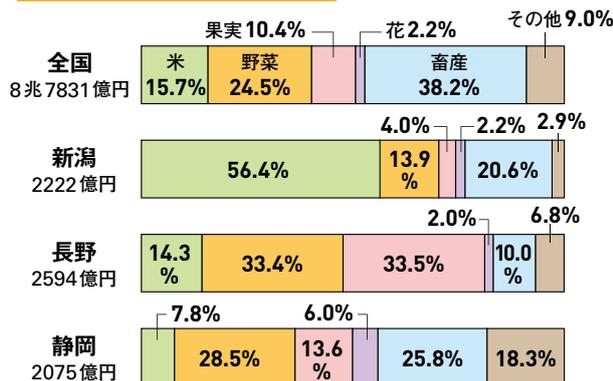
夏から秋に降水量が多く冬は温暖です。そのため、駿河湾沿いの日当たりの良い台地ではみかんや茶の生産が盛ん。また、大消費地へのアクセスが容易という利点から、都市向けに野菜や花きを栽培する園芸農業が盛んです。焼津港はインド洋や大西洋まで漁に出る遠洋漁業の拠点があります。

Q3 遠洋漁業で獲ってくるものは？

- ① アジ
- ② プリ
- ③ まぐろ



新潟・長野・静岡の農業産出額



気候の違いで農産物もずいぶん違うんだね



(2021年市町村別農業産出額(推計)より)

2 北陸の農業例

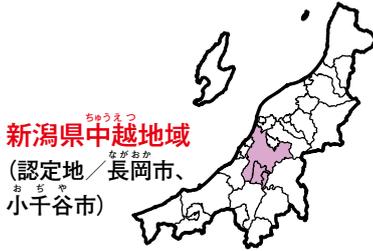
新潟県中越地域

「雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム」

日本農業遺産

山間地に位置するこの地域では、傾斜の急な険しい土地を有効に利用するため、山の斜面に棚田やため池を築き、稲作や食用の真鯉を飼う暮らしが行われてきました。この地で突然変異の色鯉を保存・飼育したことから、錦鯉の発祥の地となっています。

傾斜地では水の確保が困難ですが、豪雪地帯であることを活かして、豊富な雪解け水や横井戸を複合的に活用する仕組みが受け継がれています。



“棚田”と、棚田を改造した“棚池”の風景



地形や気候を利用する先人の知恵ってすごいな



豆知識 横井戸とは？

山などの斜面に掘った井戸。これに対して地面に垂直に掘った井戸を縦井戸といいます。



◆中越地域の風土と歴史

この地域は積雪が4mを超えることもあり、半年近く雪に閉ざされる豪雪地帯。標高500mほどの山あいには、集落が点在しています。ここは地滑りの多発地域でもあり、土砂崩れが起きるたびに、人はその斜面にあぜを築き、稲を育てました。江戸時代後期(1800～1820年代)頃に、農業用に雪解け水をためた“ため池”で、食用として飼育されていた真鯉から突然変異で生じた色鯉を保存・飼育した結果、錦鯉が誕生しました。姿形が美しい錦鯉は地域の重要な収入源であり、世界各地に愛好家がいるなど人気を集めています。

◆ため池と養鯉

錦鯉の養殖池は小千谷市内だけでも2,800以上(2018年)、昭和45年頃の最盛期には5千から6千もの池がありました。養鯉池は山の斜面につくられた棚田を改造した「棚池」が8割を占め、残りは、ため池を活用したものという研究報告もあります。

(中村勝栄・土田邦彦「新潟県山古志郷における錦鯉養殖地域の形成」1979)

田んぼの水をためながら鯉も育てていたんだね



新潟県中越地域は錦鯉発祥の地

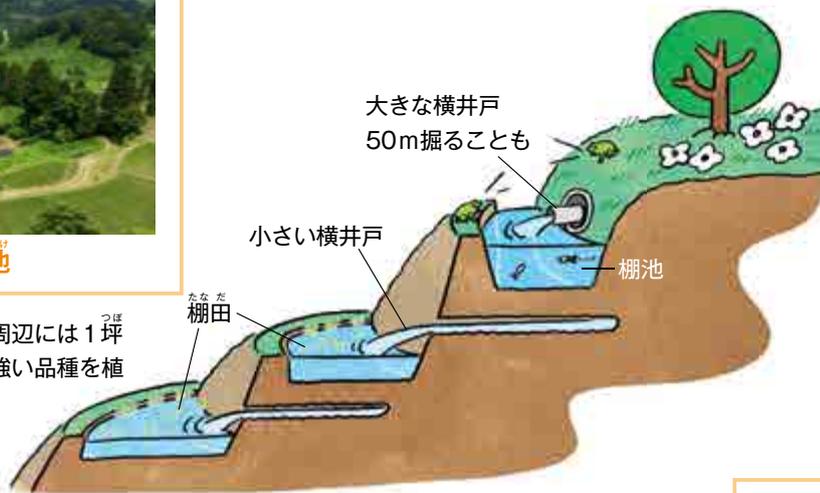
◆ 農業の仕組み

山間地の限られた土地で水を確保するため、雪解け水や横井戸の水を棚池で確保して、稲作や養鯉を行ってきました。厳しい環境を巧みに利用する住民の知恵が継承されています。



棚田と周囲の棚池

水の取入口周辺には1坪ほど冷水に強い品種を植える工夫も



棚池
 斜面の横井戸から棚池に水を入れます。雪解け水をそのまま田んぼに入ると冷たすぎるため、一旦池にため、日光で温めます。この池で、錦鯉の飼育を行っています。



昼夜の寒暖差を活かした良質な米の生産

横井戸掘りの技術は、生活用のトンネル掘りにも活かされています。国道トンネルの横に当時の手掘り隧道「中山隧道」が保存されています。

水不足のときの“ため池”としても活用する



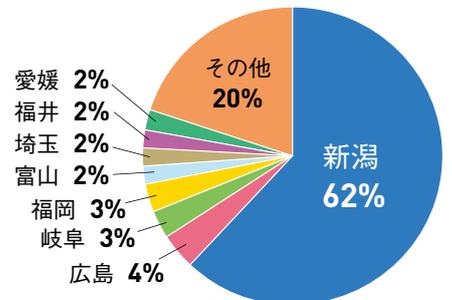
休耕田を棚池に活用して錦鯉の養殖

◆ 錦鯉の生産

錦鯉の生産量、輸出量（輸出シェア）、事業者数ともに新潟県が全国一です。主な輸出先は、アメリカ、オランダ、ドイツ、イギリスなどの欧米諸国、香港、中国、インドネシア、タイなどのアジア諸国です。海外に輸出されることで日本の伝統産業を伝える地域資源として注目されています。

錦鯉を生産する養鯉業は地域に若い労働力を引きつけ、景観の保全、棚田と棚池が入り組む特有の風景や文化の継承にもつながっています。

観賞用錦鯉養殖事業者の全国比率



(農林水産省「2018年漁業センサス」より作成)

◆ 食用にしてきた鯉

海から遠い山間地では、肉や海の魚に代わるタンパク源として古くから鯉を食用に飼育していました。現在でも、郷土料理として訪れる人々に提供されています。

鯉料理の例



鯉の煮つけ

鯉こく
 (輪切りにした鯉を味噌で煮た味噌煮込み料理)

鯉のあらい(刺身)

考えよう!

すでに学習した奥出雲の棚田(P.12、13)と中越地域の棚田の土地利用の違いをまとめてみよう。

